

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1169 医薬衛生材料費	会計	03	国民健康保険事業特別会計
		款	02	医薬費
		項	01	医薬費
基本 施策	01 10万市民の健康を維持する	目	03	医薬品衛生材料費
		細目	507	医薬品衛生材料費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	医薬品衛生材料費
担当部課	コード 753000 名称 青山支所 住民福祉課	担当者 氏名	服部 恵子	連絡先 52 - 2280 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	利用者(患者)	※対象件数
成果(どうする)	・診察後、その場で薬がもらえる(利用者の利便性を図る)	
根拠法令・要綱等	伊賀市国民健康保険診療所条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	・医療用衛生材料や医薬品の購入(単価契約) ・・在庫管理	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
医療用の衛生材料・医薬品の購入	千円	個	目標	3500	目標	3500
			実績	3484	実績	1797
			目標		目標	
			実績		実績	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	目標		
				実績	実績		
				目標	目標		
				実績	実績		

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	3,484	1,797	1,900	1,900				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0						
一般財源	3,484	1,797	1,900	1,900				
事業投入人件費(B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	
フルコスト(A)+(B)	4,204	2,517	2,620	2,620				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	医療薬剤の単価契約は、現在各施設で行っているが、今後は本庁一括で単価契約する方向で手続き事務を効率的にする。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 本庁一括での単価契約は実施できず、結果として各施設ごとに入札を行ったが、契約書等を統一したものにした。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	森本 君枝
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 今後も、診療所での診療実施に伴い、必要な医療用衛生材料や医薬品を購入し、管理する。
現時点における 課題、その他	各施設ごとで行っている医療薬剤の単価契約については、効率的でないように思われる。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	事務の効率化を図るため、来年度、本庁一括の医療薬剤の単価契約について検討する。